

日本独文学会  
秋季研究発表会

2010年10月9日(土)・10月10日(日)

第1日 午前9時50分より

第2日 午前10時00分より

会場 千葉大学  
(西千葉キャンパス)

〒263-8522

千葉市稲毛区弥生町 1-33

連絡先：千葉大学言語教育センター

E-Mail: [chiba2010\[at-mark\]jgg.jp](mailto:chiba2010[at-mark]jgg.jp)

参加費：1500円(学生会員, 常勤職のない会員は1000円)

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 501

Tel./Fax. 03-5950-1147

E-Mail (メールフォーム) <http://www.jgg.jp/mailform/buero>

## 第1日 10月9日(土)

開会の挨拶 (9:50-9:55)

A会場 (B号館)

関東支部長 富山 典彦  
会 長 前田 良三

シンポジウム I (10:00~13:00)

A会場 (B号館)

空間を書く

**Topo-graphie**

司会：本田 博之

1. ヘルダーリンの「想像の地理学」におけるオリент表象 大田 浩司
2. 〈活動空間〉をひらく風景描写：L. ティークの『ファンターズ』を  
中心に 武田 利勝
3. 『ヴィルヘルム・テル』における陸と海のトポグラフィー 本田 博之
4. 歴史表象のトポグラフィー—ドイツ歴史博物館, ベルリン・ユダヤ博  
物館, バツォン・ブロック「ベルリン歴史観察コース」(1981年)を  
例に— 安川 晴基

シンポジウム II (10:00~13:00)

B会場 (F号館 10教室)

**Geistliche Dichtung zur Zeit der mittelhochdeutschen Klassik um 1200**

司会：Dagmar Oswald

1. Das neue Menschenbild des Albertismus Yuji Nagamachi
2. Einige theologische und literarische Aspekte von Priester Wernhers *Driu liet* Karin Sugano  
*von der maget* und Konrads von Fußesbrunnen *Die Kindheit Jesu* im  
Vergleich  
Ein Beispiel geistlicher Bearbeitung in der frühmittelhochdeutschen Akihiro Hamano
3. ‚Genesis‘ um 1200. Im Hinblick auf den Unterschied der geistlichen  
Einstellung zwischen der Wiener Handschrift und der Millstätter  
Handschrift
4. Die ‚Driu liet von der maget‘ des Priesters Wernher Ernst Hellgardt

口頭発表：文学1（10:00～11:55）

C会場（C号館11教室）

司会：水上 藤悦，石井 正人

1. フリードリヒ・シュレーゲルの「模倣」の概念  
—ギリシア研究からイロニーの思想へ— 胡屋 武志
2. ヘルマン・ヘットナーとその時代  
—十九世紀ドイツにおける知の変容— 木村 高明
3. クライストの描く公共性  
—『ミヒヤエル・コールハース』における「世論」と民衆— 西尾 宇広

口頭発表：文学2（10:00～11:55）

D会場（C号館12教室）

司会：若林 恵，山内 正平

1. トーマス・マン『トニオ・クレーガー』  
—ハンス／インゲ，トニオと欲望の三角関係— 木戸 繭子
2. フィッセルレはなぜ「<sup>せむし</sup>僂儂」なのか  
—ヴェツァ・カネッティの『黄色い街』（1933）とエリアス・カネッティの『眩暈』（1935）におけるユダヤ人の身体— 須藤 温子
3. 近代北欧文学における太陽と精神疾患の表象  
—ラーゲルレーヴ『ポルトガリエンの皇帝』を中心に— 中丸 禎子

ブース発表（11:30～13:00）

E会場（F号館11教室）

ドイツ語教育部会企画：

徹底討論：ドイツ語教育部会は誰（のため）のものか？

相澤 啓一

三瓶 慎一

境 一三

招待講演 I (13:00~13:40)

D 会場 (C 号館 12 教室)

~~Andreas Wistoff~~

~~(Leiter des DAAD-Lektorenprogramms DAAD-China)~~

~~Westliche Literatur vermittelt an östlichen Hochschulen—Perspektiven, Barrieren,  
Strategien~~

**Andreas Wistoff 氏の健康上の理由により中止**

**Der Vortrag von Herrn Dr. Andreas Wisthoff fällt krankheitshalber aus.**

招待講演 II (13:45~14:25)

D 会場 (C 号館 12 教室)

Barbara Wiedemann

„Gezeitigte Sprache“. Paul Celans Mandelstamm-Übertragungen aus dem Mai 1958

ポスター発表 (13:00~14:30)

F 会場 (F 号館 12 教室)

(ポスター発表は同時進行です)

- ・マックス・ヴェーバーの「プロテスタンティズム・テーゼ」に照らし 山室 信高  
て見たトーマス・マン『ブッデンブローク家の人々』
- ・Fremdsprachliche Kommunikation in der Videokonferenz aus der Sicht der Sabine Kutka  
Lerner — am Beispiel der Videokonferenzen zwischen der Waseda  
Universität und der Universität Leipzig

シンポジウム III (14:30~17:30)

A 会場 (B 号館)

戦後ドイツの「想起の文化」

„Erinnerungskultur“ in Deutschland nach dem Zweiten Weltkrieg

司会：三宅 晶子

1. ベンヤミンにおける Eingedenken と戦後ドイツの「想起の文化」 三宅 晶子
2. 東西統一後のドイツの政治文化と文化的記憶 内村 博信
3. 戦後（西）ドイツの記念碑芸術に見るナチズムの過去の共同想起 安川 晴基
4. 「想起の文化」論のコンテクストと深度 岩崎 稔

シンポジウム IV (14:30~17:30)

B 会場 (F 号館 10 教室)

教室という現場から考える日本のドイツ語教育

**Deutschunterricht in Japan: aus verschiedenen Klassenzimmern**

司会：松岡 幸司

コメンテーター：清野 智昭

1. 指導初期の教員が抱える問題点と授業の試み  
—学習環境設定と評価— 島崎 のぞみ
2. 都立北園高校におけるドイツ語教育 伊藤 直子  
能登 慶和  
前田 直子
3. ドイツ語授業におけるポートフォリオの使用 岩崎 大輔
4. 遠隔システムによる、ドイツ語のリアルタイム双方向遠隔授業 松岡 幸司  
森下 孟

口頭発表：文学 3 (14:30~17:05)

C 会場 (C 号館 11 教室)

司会：富山 典彦, 須藤 温子

1. 死のホロスコープ 時田 郁子  
ムージルの『メロドラマ『黄道十二宮』への序曲』について
2. 経験の貧困と生の抽象化 — ムージルの『特性のない男』と「オーストリア性」をめぐる議論について 桂 元嗣
3. Im Tummelfeld der Sprache. Momoko Inoue  
Die Bedeutung des Akustischen in Elfriede Jelineks *Sportchor*
4. 虚構と現実の間で 杵渕 博樹  
— Clemens Meyer „Gewalten” の物語戦術と「日記」性

口頭発表：文学 4/文化・社会 1 (14:30~16:25)

D 会場 (C 号館 12 教室)

司会：石井 正人, 田中 一嘉

1. ラインマル・デア・アルテの「使者の歌」における使者の役割について—ハインリヒ・フォン・モールンゲンとの比較を通じて— 伊藤 亮平
2. シュヴァーベンの謝肉祭 (Fastnacht) について 林 敬太  
—演劇的観点からの考察—
3. 新たな転換期(Wende)を迎えつつあるベルリン音楽シーン 伊藤 壯  
—グローバル化時代における「音楽シーン」の意義—

ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表（14:30～17:30）  
G会場（D号館23教室）

日本独文学会賞授賞式（17:30～18:00）

けやき会館大ホール

懇親会（18:00～20:00）

会場：千葉大学西千葉キャンパス けやき会館

会費：6000円（常勤職のない会員4000円 学生会員3000円）

## 第 2 日 10 月 10 日 (日)

### シンポジウム V (10:00~13:00)

A 会場 (B 号館)

ドイツ語圏文化の現在 —ベルリンの壁崩壊・東欧革命後 20 年の変化を読む—

#### **Kulturelle Aspekte im deutschsprachigen Raum heute — Über die Veränderung der 20 Jahre nach dem Berliner Mauerfall und der demokratischen Revolution in Osteuropa**

司会：奈倉 洋子

1. コミュニティの破綻とマイノリティ文化の再編  
—東欧革命後のルーマニア・ドイツ語文学— 藤田 恭子
2. DDR の写真作品にみる表現の模索とその行方 重野 純子
3. ベルリンの壁崩壊後のドイツにおける外国人, マイノリティの立場  
を検証する 小林 徳子
4. ドイツにおけるトルコ系作家の現在 竹田 和子  
—エミネ・セヴギ・エツダマーを中心に—
5. 国境なき時代のドイツ女性映画監督たち 三上 雅子

### シンポジウム VI (10:00~13:00)

B 会場 (F 号館 10 教室)

ゲルマン祖語から現代ドイツ語へ—歴史的発展における駆流とその反動—

#### **Vom Urgermanischen zum Neuhochdeutschen** — Entwicklungstendenz und Gegenwirkung —

司会：齋藤 治之

1. ゲルマン祖語から西・北・東ゲルマン語への変化 嶋崎 啓
2. 現在完了の語用論的意味について 金子 哲太  
—古高ドイツ語から中高ドイツ語にかけて—
3. 中高ドイツ語 „Prosa-Lancelot“ の会話部分における語順 平井 敏雄
4. 初期新高ドイツ語における揺れ—古い語法と新しい語法の競合— 工藤 康弘

### 口頭発表：ドイツ語教育 (10:00~12:35)

C 会場 (C 号館 11 教室)

司会：田中 慎, Frank Riesner

- |   |  |
|---|--|
| 1. 第二言語学習における意味推測による語彙導入について  | 中川 純子  |
| 2. 日独学習者の疑問文イントネーションにおける心的影響  | 新倉 真矢子<br>菅原 勉                                       |
| 3. Die Lernkultur in Japan — nur ein Mythos?  | Andreas Meyer<br>Holger Schütterle<br>Michael Schart |
| 4. Mit Muttersprachlern auf Deutsch sprechen — auch schon nach dem<br>allgemeinbildenden Unterricht | Rudolf Reinelt                                       |

口頭発表：文化・社会 2 / 語学 (10:00~11:55)

**D 会場 (C 号館 12 教室)**

司会：宗宮 好和, 奥野 保明

- |   |                  |
|---|------------------|
| 1. ドイツ民族商業補助者連合 (DHV) の教育活動<br>—その全体像と「民族主義的」特色—  | 竹岡 健一            |
| 2. Soziale Implikationen der Modalverben in der Kommunikation.<br>Die Modalverben und „lassen“ im Einbürgerungstest | Verena Calenberg |
| 3. ナチ占領下のポーランドにおける地名のドイツ語化<br>—語形成からのアプローチ—   | 渡辺 克義            |

ブース発表 (11:30~13:00)

**E 会場 (F 号館 11 教室)**

- |  |                        |
|--|------------------------|
| 発音指導方法の類型化に向けた試み<br>—母音の特性を利用した自律学習への糸口— | 島崎 のぞみ<br>林 良子<br>境 一三 |
|--|------------------------|

ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」 展示・発表 (10:00~13:00)

**G 会場 (D 号館 23 教室)**

閉会の挨拶 (13:00-13:05)

**A 会場 (B 号館)**

宗宮 好和